



協会ニュース

第32号

平成23年3月31日発行

編集発行人／宮川 俊介 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町15-17（日本基礎技術株式会社内） TEL (03) 3476-5721 FAX (03) 5489-7821

ホームページ変更のお知らせ

当協会のWebサイト（<http://www7.ocn.ne.jp/~rta/>）のURLは、平成23年4月1日より「<http://roctech.jp/>」に変更させていただきます。ブックマークなどに登録されている皆さまは、設定のご変更をお願いいたします。

年頭にあたって

岩盤削孔技術協会会長

見波 潔



あけましておめでとうございます。平成23年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

また、皆様には平素より当協会の活動に格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

大口径岩盤削孔工法は各種建設プロジェクトを支える工法の一つとして、永年に渡って蓄積されてきました経験、ノウハウ、技術力を活かして社会に貢献してまいりました。昨年は厳しい社会経済情勢の中ではありますが、会員各社が確実に実績を上げられましたことに敬意を表します。

当協会は大口径岩盤削孔工法の普及および技術の向上を図ることを目的として、高い技術力を有する施工専門業者ならびに機械製作会社を会員として平成元年に設立されました。会員各社のご努力と協会の活動が相まって、本工法が今日までに健全に発展してきたものと自負しております。

建設投資が長期低落傾向にある中ではありますが、厳選されたプロジェクトにおいて大口径岩盤削孔技術が必要となる場面は必ず存在します。本技術に出番が与えられた時には高い技術力と信頼性によって、発注者ひいては国民の皆様の期待に応えようではありませんか。

苦しい時こそ皆様の期待に応える仕事をきちんとやり遂げ、さらには将来に向けて技術の研鑽に努め、厳しい状況を何としても乗り切りたいものです。

協会では、発注者、設計者、施工者からの様々な技術的問い合わせや要請に対応すべく、会員各位のご協力を得て日々工法の普及に努めており、平成22年度の事業として「リーダ式ケーシング回転掘削工法積算資料（平成22年度版）」および「会員施工会社施工実績調査表（平成21年4月～平成22年3月）」を発行いたしました。

平成23年度は、昨年度に引き続いて（社）日本建設機械化協会主催の「橋梁架設・大口径岩盤削孔の施工技術と積算及び建設機械等損料」講習会に講師を派遣し、大口径岩盤削孔の施工技術と積算について広く普及に努めてまいります。また、技術相談の受付や協会ニュースの発行など外部への情報発信や会員相互の情報交換をインターネットを活用してより効果的に行ってまいります。

技術を大切にする会員の皆様とともに大口径岩盤削孔技術を育んで、発展させますとともに、本技術に対する関係各位のご理解をなお一層深めていただきますよう努力したいと考えております。本年が皆様にとって実り多い年になりますことを祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

委員会活動報告

1. 運営委員会 2回
(平成22年5月20日～平成22年10月7日)
 - ・平成21年4月から平成22年3月までの4工法施工実績表の作成、発行
 - ・協会ニュースの審議
 - ・ホームページの審議
 - ・総会の開催、運営
 - ・予算の審議
2. 協会ニュース編集分科会 2回
(平成22年5月20日～平成22年10月7日)
3. リーダ式ケーシング回転掘削工法分科会 2回
(平成22年5月20日～平成22年10月7日)
4. 大口径岩盤削孔工法・施工機械技術資料改訂分科会 2回
(平成22年5月20日～平成22年10月7日)
5. ホームページ分科会 2回
(平成22年5月20日～平成22年10月7日)

成果品

1. 平成21年4月から平成22年3月までの4工法施工実績調査表の発行(平成22年6月10日)
2. リーダ式ケーシング回転掘削工法積算資料の発行(平成22年8月25日)

広報活動

1. 協会ニュース 1回：第31号(平成22年8月31日)
2. ホームページ改訂(平成22年9月15日)

対外活動

1. (社)日本建設機械化協会技術委員会参加 4回
(平成22年4月14日～平成22年8月4日)
2. (社)日本建設機械化協会主催「大口径岩盤削孔の施工技術と積算」講習会
平成22年6月14日から平成22年7月7日まで、仙台、東京、大阪、名古屋、広島、福岡の6ヶ所で、当協会派遣講師により、大口径岩盤削孔施工技術の普及を行った。

工法・新製品紹介

全回転チュービング装置 大型モデル：RT-300Ⅲ

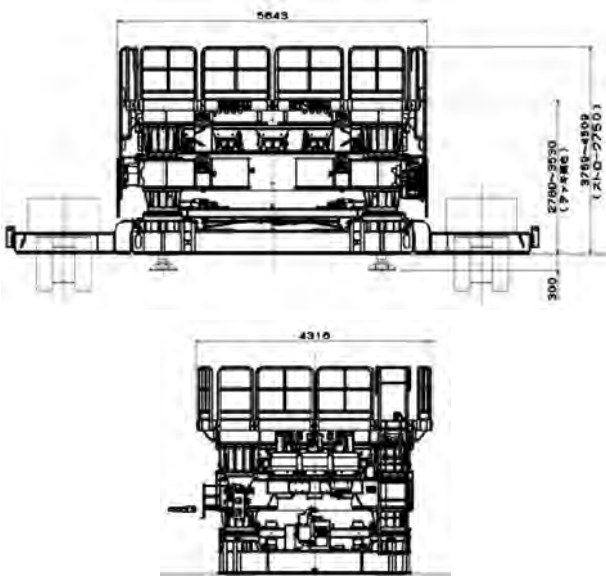
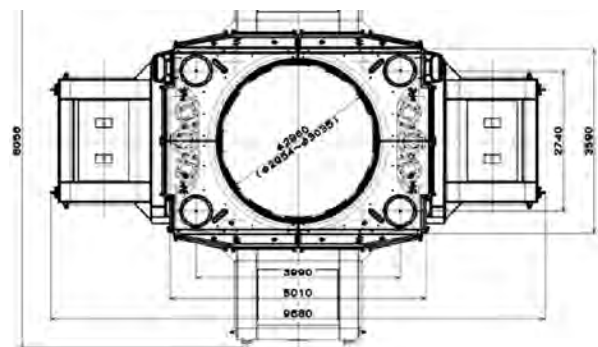
1. はじめに

昨夏発行の「協会ニュース第31号(平成22年8月)、最大級の全回転チュービング装置RT-320H」の紹介コメントにて、一部お知らせしました当社のオールケーシング掘削機RT-300Ⅲにつきまして、開発が終了し、ユーザへの引き渡しも無事に行われましたので、ここに紹介したいと思います。

2. 大型モデル：RT-300Ⅲの開発

大型モデル：RT-300は最大掘削口径φ3000mmを擁し、1993年6月の初号機からこれまでに2代目：RT-300Ⅱを含め、国内向けに19台、海外向けに9台の出荷実績があります。とりわけ、大型工事に使用されることが多く、近年では都市再開発に伴う既設地下構造物・基礎杭の障害撤去工事にも利用されることが多くなってきております。

しかしながら前モデル：RT-300Ⅱは、掘削口径サイズがワンランク下のRT-260H(最大掘削口径φ2600mm)より回転トルクが小さく、工法の変化と共にφ3000mmの施工においてもRT-260Hと同等以上の回転トルクを要望される様になり、そのニーズに応えるべくRT-300Ⅲを開発しました。



〈図1. RT-300Ⅲ外観図及び概略仕様〉

3. 概要

図1にRT-300Ⅲの外観図と概略仕様を、図2に性能比較表を示します。

回転トルクは前モデルより大幅アップの低速時：5280kN・mを実現し、緊急時の瞬時トルクも3割超アップとしました。パワーアップには、それに対応するフレームも強度アップが必須ですが、フレーム構造を最適化することで、質量・寸法とも、前モデルより僅か数%の増加にとどめております。

各シリンダ類は前モデルや他の現行モデルと共通化を図り、サブチャックにはクサビ式を踏襲しました。オプションとしましては、従来はハイパワーモデル(RT-200H、RT-260H)のみに設定しておりました『超高速回転仕様』(高速回転時の約2倍の回転数を発揮し、施工能率をアップさせる機能)を新たにに加え、多様な施工方法にも対応可能としました。

また、油圧ユニットもRTP-480E型のシリーズとしました。



〈写真1. 現場施工中のRT-300Ⅲ〉

モデル	RT-260H	RT-300Ⅱ	RT-300Ⅲ
回転トルク kN・m	5100/3000/1730	4140/2430/1400	5280/3100/1790
瞬時トルク kN・m	5950	4600	6040
回転速度 Min-1	0.6/1.1/1.9	0.7/1.2/2.1	0.6/1.0/1.7
押込力 kN	830	820	820
引抜力 kN	3800	4020	4020
瞬時引抜力 kN	4340	4470	4470
サブチャック保持力 kN	1960	1470	1470
寸法(L×W×H) mm	4720×3200×2330	4920×3495×2780	5010×3590×2780
質量(サブチャック含) ton	48.4	55.3	57.5
油圧ユニット型式	RTP-480EH	RTP-480E	RTP-480EA

〈図2. 性能比較表〉

RT-300Ⅲ 外観図 s=1/50
(仕様)
 回転トルク : 5280/3100/1780 kN・m
 (539/316/182 tf・m)
 瞬時トルク : 6040 kN・m (623 tf・m)
 回転数 : 0.6/1.0/1.7 rpm
 引抜力 : 4020 kN(410 tf) シリンダ力
 : 4470 kN(456 tf) シリンダ力
 瞬時引抜力 : 4470 kN(456 tf) シリンダ力
 押込力 : 820 kN(84 tf) シリンダ力
 質量 : 53.0 (本体)
 : 4.5 (サブチャック)
 : 5.0 (反力ブラケット)
 油圧ユニット : RTP-480EA

4. おわりに

RT-300Ⅲは2010年8月の初号機から、12月末現在で、既に4台を国内に出荷しております。十分な回転トルク出力により、余裕のある施工を行うことが可能となり、ユーザからも高い評価を頂いております。写真1に施工中の当該機を示します。

今後も、時代とユーザが求める機能・性能をもつ製品をタイムリーに開発・生産していく所存です。

User Interview

丸門建設(株) 工事部長 大部 淳氏

今回は、二軸同軸式分離型を主体とする、岩盤削孔業界のトップクラスの施工会社である丸門建設(株)の工事部長大部氏にインタビューしました。

記者：貴社の岩盤削孔技術の概要をお聞かせ下さい。

大部：当社は、プレボーリング・中掘工法等々、一般的な杭施工はもとよりH鋼打設・障害撤去など、さまざまな建設現場に於いて多種多様に対応出来る様部材・資材・技術と充実を図れるよう日々努力しております。

各々の一般工法に於いて、障害物であったり硬質地盤であったりと、通常の施工方法では打設不可能の状況に於いて、二軸同軸式分離型岩盤削孔技術をふんだんに使い、不可能を可能にすべく努力しております。

記者：貴社の設備に対し、お聞かせ下さい。

大部：現状、二軸同軸式アースオーガ工法に於いては、最小径φ490から最大径φ1500で対応しており、ベースマシンに於いてもD H 658-135Mを主軸に、大径施工の場合の安全性・施工期間の短縮等々に対応出来るようD H 808-170Mも導入しております。

また今般、環境問題が叫ばれる中、排出ガスの低減・燃料消費の削減等々環境に配慮し、エコ装置の導入も致しております。

記者：現在の現場対応をお聞かせ下さい。

大部：今日、市況は再開発等々が増加の傾向にあり、既設の基礎ベースや地中梁・地下等の底盤、また既設の基礎杭・土留H鋼など現存する障害物の位置に新設をする

等々の仕事が多々見受けられます。それらの現場状況に応じ、低コスト・短工期・安全性等々を踏まえ、最良の提案が出来るよう努力しております。

記者：多種多様の現場との事です。資機材等々に於けるメンテナンス等々お聞かせ下さい。

大部：当社は、機材センターを保有しており、各現場に合わせケーシングの組合せ・各種資機材の加工・特殊機材の作成等々自社に於いて加工製作を行なっております。資材センターの技術員が現場・営業と三位一体となり個々の現場状況に於いて、最良の施工が出来る様、さまざまな資機材を作り出し送り込んでいます。また、現場終了後は次の現場に於いて安全に施工出来る様、安全点検を蜜に行なっております。

記者：これまでに、沢山の現場を消化されてこられたと思いますが、今後の展望をお聞かせ下さい。

大部：今後、益々障害撤去等が増加の傾向にあるのではないかと考えているのですが施工条件等々もそれに比例して非常に難易度を増してくると思われま。それらの条件をクリアすべく、施工技术・機材等々レベルアップを計り、ベスト施工を目指したいと思います。また、施工スピードも必要不可欠ではありますが、安全面には特に注意し無事故で精度の良い施工が出来る様、技術員全員でミーティングを行い、素晴らしいと言われる様な作業状態を作って行きたいと思っています。



大部 淳氏

(丸門建設(株) 堀 一弘)

岩盤削孔工事施工事例の紹介

ダウンザホールハンマ 拡張ビット工法

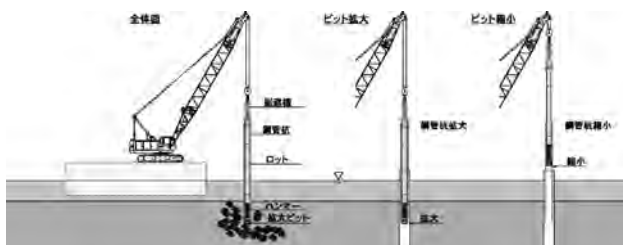
工事名：平成22年度長安ロダム貯水池内仮設構台設置工事
 工事場所：徳島県那賀郡那賀町長安
 発注者：国土交通省四国地方整備局那賀川河川国道事務所
 施工者：大鉄工業株式会社

徳島県の長安ロダムは、徳島県那賀川水系唯一の多目的ダムとして那賀川流域発展の為に大きな役割を果たしていますが、治水・利水の安全性が十分ではなく平成19年より改造事業が行われています。

本工事は、その改造事業の一環として実施しており、洪水調整能力の増強を目的に新規に洪水吐を増設する為の仮設構台設置工事を施工中です。本工事では全長7.5mの棧橋の中間2.4mを施工し、施工完了後完了した構台部分より順次棧橋が延長され、洪水吐の増設工事に取り掛かります。

現場は、国道195号に面していますが大変狭い区間で、工事の片側通行規制も不可能な程狭く、道路からの施工が不可能な場所であったため、水上に合計76基のユニフロート台船を設置し(クローラークレーン設置用本船：45基、鋼管杭他材料用船：21基、その他：10基)、台船上に搭載した166tのクローラークレーンで仮設構台

の鋼管支持杭をダウンザホール拡張ビット工法にて施工しています。杭工法として、水中施工のため、通常の削孔では引抜と同時に壁面が崩壊し掘削穴が埋まってしまうため、鋼管支持杭を同時削孔し本管で崩壊を止めながら打設を行う拡張ビットハンマー工法を採用しました。又、削孔時には、スライム飛散防止カバーを取付けスライムの飛散を





最小限に抑えると共に、ダム湖内での施工となるので、打設中に発生する汚濁が拡散しないように汚濁防止膜で周囲を取り囲み、スライム受ベッセルにて残土を集積し、周囲への濁りの影響がないようにしています。尚、油資類は動植物に影響が無い自然分解性エコオイルを使用しました。

高さ約30mの水中橋脚杭のプレスには、当社が開発したワンタッチ伸縮梁工法（特許取得済）が採用されました。通常工法では、プレスの部材を一本ずつクレーンで吊りな

がら水中ダイバーが潜水し溶接にて取り付けており、非常に手間がかかり重労働で危険な作業となります。しかし、ワンタッチ伸縮梁工法は、陸上で設置するプレスを1式組み上げて設置位置へ吊込み溶接し取り付ける為、クレーンの使用含め、短時間の潜水で施工を完了させることができ、取付手間を最小限に抑えダイバーへの負担も少なく安全な工法です。

（（株）高知丸高 高野一郎）



ここにこんな人が

わたしの履歴書

岩盤削孔技術協会 事務局長 （日本基礎技術(株)技術本部副本部長） 岡 憲二郎



■ 郷里・幼年時代・学生時代
岡山県笠岡市、カブトガニの繁殖地として有名な神ノ島で昭和二十六年に生まれ、今年で還暦を迎えます。十干十二支でいうと辛卯（かのとう）生まれ、もともと暦では茂（ぼう）という字が卯に変わったそうで、若葉が生い茂るということから成長発展を意味し、世の中は変化や競争が激しくなる年といわれています。そういえば、昭和二十

六年は朝鮮戦争（1950～1953）でソウルが陥落し、トルーマン大統領によってマッカーサーが解任された年です。日本はこの戦争による特需で第2次世界大戦後の経済復興のスピードを加速させましたが、朝鮮半島は南北に分断されたままです。今年はまだ辛卯、音読みでシンボウとなり、内憂外患の「辛抱」を強いられる年になるとの解釈もあります。要は、世の変化に流されることなく、自らが選び取った道を有意義なものにするため、一層努力精進に励む歳になったと前向きに考えています。

岡山で過ごしたのは小学校1年まで、その後は兵庫県神戸市で育ち、大学は京都に進学、農業土木工学を専攻しました。

■ 社会に出て

昭和五十年に卒業し、大阪にある土木の会社に入社。5年間は港湾工事に従事し、その後は推進・セミシールド・シールド・山岳トンネル（在来）・NATM・都市NATM関連工事に携わってきました。平成7年の阪神淡路大震災以降は、主に耐震補強技術（マイクロパイル）や地盤

改良技術（高圧噴射攪拌工法）の開発、削孔技術の高度化を進めてきました。現在は、日本基礎技術(株)技術本部で、「人と環境の共生をめざし建設基礎技術で豊かな社会創りに貢献する」ことを目指し、「誠実で信頼できる技術者（社員）づくり」、「現場と生の情報でつながっている組織づくり」、「競争に打ち勝つための施工技術の高度化」を進めています。

■ 趣味・信条

趣味は「家庭菜園」と「健康ゴルフ」。特に、家庭菜園はスポーツ園芸と称して、鍬鎌のみで汗水流しながら、若干自虐的に200㎡程度の畑作に熱中しています。しかしながら、昨年の夏の異常高温では熱中症寸前となりました。今年は、健康ゴルフに軸足を移し、池越えの無理せず、チョロ・グサでも慌てず騒がず、OBでも泰然自若で、楽しく100を目指す所存です。

信条は、父親（海軍兵学校六十五期生、終戦時は兵学校教官・海軍少佐・叙従六位）の影響もあり、「五分前精神」・「早飯・早糞芸の内」と「五省」が信条となっています。特に、五省（・至誠に悖るなかりしか・言行に恥ざるなかりしか・気力に欠くるなかりしか・努力に憾みなかりしか・無精に亘るなかりしか）は、口ずさむ度に感銘を覚えます。

■ 今後の展望

当社は、ものづくりの施工技術を提供する専門業者として、建設基礎技術・独自施工技術の生産性向上や品質確保に重点を置いています。また、人と環境の共生をめざし、新しいことに挑戦したり、区切りをつけ心機一転頑張る年にしたいと思っています。

（岩盤削孔技術協会 岡 憲二郎）

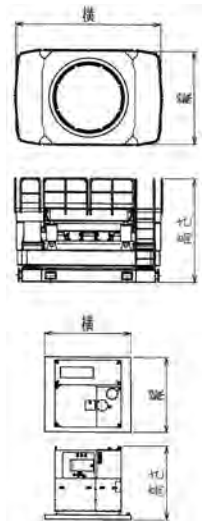
施工機械技術資料

三和機材株式会社

■ロダム工法(据置式)

特長

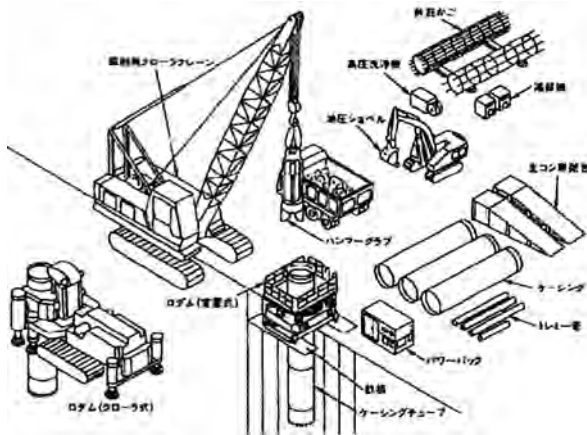
- 1) 強力なトルク: ケーシング回転用モータは従来油圧モータが一般的でしたが本機においては新しく電動モータを採用したため瞬時的に定格の1.6倍のトルクを発生させることができます。またモータはインバータ制御のため無段変則が可能となり、かつ省エネルギーになります。(RB-200MN型)
- 2) 輸送に考慮掘削装置は分割輸送も考慮し、短時間で短時間で分解・組立てが可能な構造になっています。
- 3) 高度な施工が可能: ダブルチャック機能を装備しケーシングのつかみ替えが容易にできます。
- 4) 施工データの記録・保存が可能: オプションの管理装置とセットで使用することにより、掘削トルク、深度などの施工データの収集・保存と印刷が可能です。



R B-200 N M

仕様 掘削装置本体

型式		RB-200NM	RB-200HC-IV	RB-150H-III
掘削径	mm	φ2000~1000	φ2000~1500	φ1500~1000
ケーシング引抜力	kN(tf)	定格 3528(360) 瞬時 4018kN(410)	2097(214)	2097(214)
ケーシング押込力	kN(tf)	294 (30) 自重含 686 (70)	294 (30) 自重含 637 (65)	294 (30) 自重含 568 (58)
ケーシング引抜ストローク	mm	750	1000	1000
ケーシング回転力	kN・m (tf・m)	定格 1980(200) 瞬時 3234(330)	1764(180)	1372(140)
ケーシング回転速度	min ⁻¹	0.7~2(無段変速)	MAX 2.8	MAX 2.2
質量	t	38.4	35	28.5
寸法(縦×横×高さ)	mm	2800×4480×3140	3098×4680×3005	2540×4376×3016
口油圧ユニット				
原動機		3相 AC 電動モータ	ディーゼルエンジン	ディーゼルエンジン
質量	t	5.1	7.0	7.0
寸法(縦×横×高)	mm	2265×2740×2213	1850×4100×2450	1850×4100×2450



施工全体図

株式会社高知丸高

- スーパーガイドパイル工法(特許取得済・NETIS申請中)
超大起振力パイロフォンサー+特殊案内杭にて岩盤・転石破碎。先端補強及びジェット・エア管を内蔵した特殊案内杭を直接、岩・転石層に打設し、引抜後本杭を打設(矢板・H・鋼管(矢板)等対応)。
- 鋼管栈橋SqC(セクシー)ピア工法(特許・NETIS取得済)
支持杭を鋼管にする事により杭数激減。鋼管の剛性により下部工不要の為、工費・工期を大幅削減、安全性向上。全鋼材リース対応可。4種類にて取得(①上部パネル先行式②長大スパン杭CAP式③トラスジャケット式④本橋ステップブリッジ)
- 鋼管本橋ステップブリッジ工法(特許・NETIS取得済)
SqCピア工法を応用した永久橋で、早く・安く・環境に優しく安全な工法。特に急斜面・急峻な山岳部には経済的に優れた工法で、高速道路並みの強度を持つ橋。



丸井重機建設株式会社

- ロックオーガ掘削【該当資料番号A-3】
○硬質地盤の掘削が必要なセメントミルク工法等(既製杭、H形鋼杭等)の実績が数多くあります。
- ドーナツオーガ掘削【該当資料番号A-4】
○一体型、分離型およびインバータ制御型アースオーガを所有。硬質地盤を効率よく掘削します。
- ケーシング回転掘削【該当資料番号C-3、C-4】
○油圧式および電動式の全回転型オールケーシング掘削機を所有。場所打杭や地中障害物撤去等の実績が数多くあります。



ドーナツオーガ

ケーシング回転掘削



ここにこんな人が

わたしの履歴書

株横山基礎工事
社長室長

孝本 英俊



孝本 英俊 (こうもと ひでとし)
昭和42年 5月 3日兵庫県生まれ
平成 6年 1月(株)横山基礎工事入社
平成 6年10月社長室長に就任

■ 郷里・幼年時代・学生時代

本社がある兵庫県佐用町に生まれました。自然豊かな「星の都」と呼ばれる夜空が美しい山里で、深く神秘的な朝霧でも有名な大撫山に作られた県立西はりま天文台には、世界最大（一般公開用）の反射式天体望遠鏡「なゆた」があります。幼い頃は、落ち着きがなく、自転車に乗ると遠方に出かけ、なかなか家に帰らず家族からは鉄砲玉と呼ばれ、トラックや建設機械に憧れ、将来は運転手になりたいと思っていました。剣道の道場に通うようになり、そこで初めて横山社長と私の妻と出会うの

ですが、その当時、当社はまだ自動車整備が主体で、その後の建設業への進出や、また自分がお世話になることなど想像もできませんでした。ただその頃から社長には大変優しくして頂いたことを今も鮮明に覚えています。

大学時代は、専ら身体を動かし汗をかくアルバイトを選んで学生生活を送っていました。ただ、不思議なことに当時付き合っていた妻から当社の携わる明石海峡大橋アンカレッジ基礎の話聞いても、建設業を一生の仕事として選ぶことは思いもよらなかった。実際の仕事のスケールの大きさや奥深さに触れ、そこに今のような大きなやりがいを実感するようになったのは、結婚を期に入社したそのずっと後のことです。

■ 郷里の被災で思う

2009年8月9日。佐用町は台風9号に起因する豪雨により被災しました。多くの尊い命、生活の場が失われ、近隣では現在も護岸復旧、改修などの工事が行われています。

私は入社後から、阪神淡路大震災、近年の新潟中越沖地震など多くの災害復旧の現場で施工に携わってきました。しかし、いざ自らが被災したそのとき、独りの人間にできることはあまりに少ない。あの日、自然の脅威に対する無力さを思い知らされると同時に、全国の皆様にご支援を頂きながら、炎天下泥にまみれ復旧作業を行い、建設業の使命の本当の大切さに気付きました。

■ 経営理念

「LIBRA工法」のような独自の新技術の発案・開発から基礎工事の難現場まで、当社の一貫した理念があり、それを一言でいうとすれば「常に、私たちに、今、与えられた社会的使命を果す」ということになると思います。

当社にとって、「社会的使命」とは誰かから与えられるのをただジッと待っているものではない。独りで作り出せるものでもない。それは、常に私たち一人ひとりの方から「今、自分にできること」が、「今、それを待ち望む相手」に明確に伝わった時に生まれ、結果を確実に手渡せた後にはじめて「与えられていた」と気付くもの。その使命を、「果す」とは、「社内・社外を問わず、まず、望んでくださる相手に対し、今、自らができることを伝え続け、そこで求められたことを最後までやり遂げる」こと。それらを一つ一つ積み重ね続けていくことが信用となる。横山社長以下、社員全員の情熱を肌で感じながら、今も身に刻みつけている最中です。

また、「やり遂げる」、アイデアや約束の具体化のプロセスは、途切れることの無い、不具合の確認とその後の改良・改善の実践の繰り返し。そのときに、目の前の課題に対して「なぜ、それは起きたのか」、そして「ならば、解決のため自分には何ができるか」、固定観念や思い込みを捨ててじっくり考え答えを出し、素早く行動するように、社員全員がお互いに声を掛け合い、実践しているところです。

■ 信条

・ 熱いプロセス ・ スマートでシンプルな結果

■ 趣味

風を切る、そんなスピード感のある爽快なスポーツが趣味です。中でもスキーが大好きで、毎年営業車のフロントガラス越しに白銀の斜面が朝日に輝きを見つけると、身体の芯が疼きます。つい先日も、肺の奥まで冬の空気を一杯に吸い込みパワー全開で滑走したのですが、今、実は人影がまばらなゲレンデが少し気になっています。三浦雄一郎さんが体現されているようにスキーは生涯を通じ自然と向き合い、その喜びを人と分かち合えるスポーツだと思いません。再び、多くの皆さんにその魅力が伝わる機会があることを願っています。

■ 社員とのコミュニケーション

私自身に何か特別モットーがあるわけではありません。施工現場で一緒に作業して、お互いに感じたことを話す

。そこから始める。それが、専門工事業者の社員として最も大切で何物にも代え難いプロセスなのだと、最近改めて実感するようになりました。毎年世代交代は進み、今、後輩達の先頭に立つ私を含めたかつての「若手社員」一人ひとり、自らの行動の責任の重さを痛感しています。だからこそ、現場の課題のひとつひとつに真っ直ぐに向き合い、与えられた使命を全うする、そのために、先輩・後輩と本音で話すことが必要になっているのだと思います。

■ 今後の展望

政治・経済の巨大なうねりの中建設業が節目に差し掛かり、再編・再生が課題とされる今日ですが、やはり、その課題も解決も、現在稼働中の現場、また今そこで働く人の間に在るのだと思います。

「適材が適所で最大限その能力を發揮できる職場」、働く人全てがそういう実感を持てるよう、様々な個性の社員の間、各々の役割の部署間にも壁を作らず、近づき、つなげて行く。私が育ってきたその当社の社風を守り、拓げながら、新しいことにチャレンジする。その過程で会社全体が、私自身を含め、更に成長できる、というのが理想です。

またこの度、当社ではそのような過程を経てLIBRA工法他のNETIS登録工法に加え、新たに河川内の橋梁下部の補強工事用の作業構台としてPHOENIX STAGE（フェニックス・ステージ）工法のご提供を始めました。「不死鳥」と名付けたこの新技術によれば6メートルを下回る桁下空間で作業構台を急速施工で構築でき、主要な幹線道路や鉄道の橋梁を補強し、再生する工事のお手伝いができます。

これからも当社は、確かな先進の技術で、歴史ある構造物を守り、そしてまた新しい日本の歴史を創るお手伝いをしたいと願っています。

(株)横山基礎工事 孝本 英俊

編集後記

協会ニュース発刊にあたり、執筆者の皆様にはご多忙のところご協力頂きまして誠に有難うございました。(編集分科会)